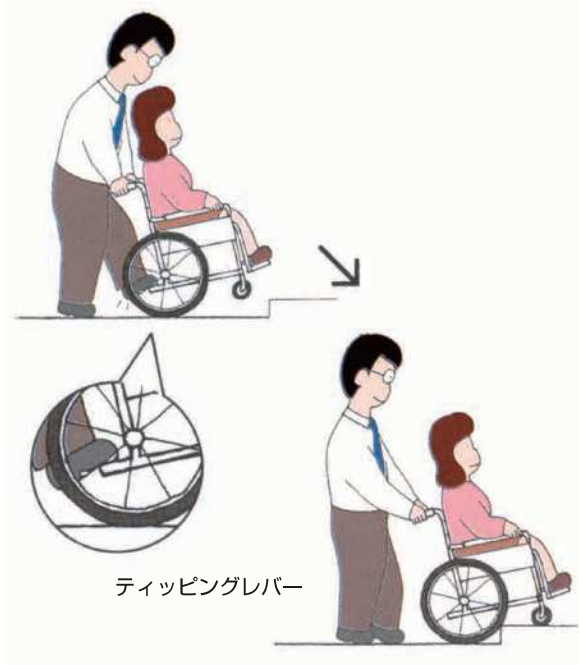


支援のポイント

車いすに乗っている方への配慮のポイント ～段差や溝がある場合～

1 昇る時

- 昇る手順は「車いすを傾けます」と声をかけます。
- ① ティッピングレバー（後輪の内側の棒）を踏み、
 - ② 同時にハンドグリップ（持ち手）を押し下げて前輪キャスターを上げます。
 - ③ 後輪だけでバランスを保ちながら段差に近づきます。
 - ④ 前輪キャスターを段に乗せてから、後輪を押し上げます。



2 降りる時

降りる手順は、後ろ向きになり「降ろします。」と声をかけます。上がる時と逆の要領で、車いすの背を身体で支えながら衝撃を与えないようにそっと降ろします。

3 小さい段差や溝がある時は、斜めに通るか、後向きで通ります。

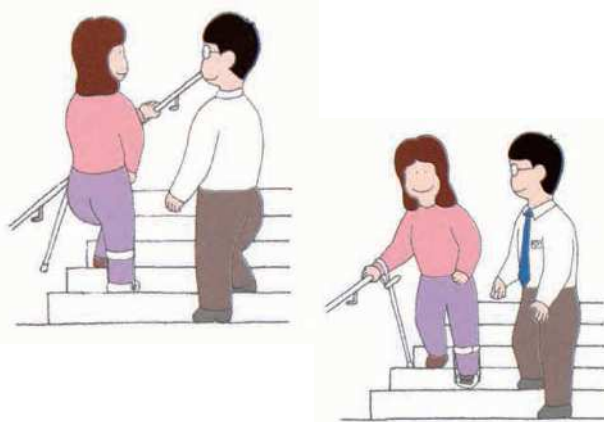
車いすは、少しでも段差や溝があると前輪のキャスターがつかえたり、はまり込んだりします。

杖を使っている方への配慮のポイント

1 杖を利用している方が階段を昇る時は斜め後ろから介助してください。降りる時は本人の一段下の斜め前に立ち、横向きに降りてください。

杖は、片側にまとめて持つなどして、手すりを持たないほうが安全です。

2 両松葉杖の方など、書類を持つのに支障がありそうな時は、「書類を持てますか」「ご一緒に、お持ちしましょうか。」など適宜たずねてください。



「障害のある方が利用できる建物、施設」であることを示す、世界共通の国際シンボルマークです。

* このマークはすべての障害者を対象としたもので、特に車いすを利用する障害者の方を限定し使用されるものではありません。

ヘルプマーク

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成したマークです。詳しくはホームページをご覧ください。

https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/shougai/shougai_shisaku/helpmark.html

令和5年8月

発行：東京都心身障害者福祉センター 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ
電話 03-3235-2952

東京都
再生紙を使用しています



リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

肢体不自由のある方への理解のために



肢体不自由って、どんな障害

病気やケガなどにより、上肢・下肢・体幹の機能の一部又は全部に障害があるために、立つ・座る・歩く・食事・着替え・物の持ち運び・字を書くなどの日常生活上の動作が困難になります。

介助者の心構え あ い こ の気持ちで



あ 相手の立場・目線で話す

車いすを利用の方とお話をする時は、心身に負担をかけないように、少しかがんで同じ目線でお話をしてください。

杖を利用の方とお話をしたり、書類を書いている時は、いすを用意するなど相手の方に合わせた配慮をしてください。



い 意思を確認する

障害の状況や必要とする介助は、人により様々です。「何をして欲しいのか?」「どんな方法が良いのか?」ご本人の意思を十分に確認することが、支援の第一歩です。



こ 声をかけてから支援する

何も言わずに、突然、車いすを押すなどの支援を始めると相手の方は驚かれたり、不安や不快に感じます。

「車いすを押しましょうか?」「次は右に曲がります。」などの声をかけ、相手の意向を確認してから支援をしてください。



無理はしない で !!

介助には、複数の人が必要な場合もあります。無理な介助は、腰痛や関節をいためる原因となります。また、介助される方にとっても危険となります。一人では無理な場合は、周囲に協力を求め、安全な方法で行ってください。

